



横林 賢 — Kenichi Yokobayashi
広島大学病院 総合内科・総合診療科
(2003年3月 医学部卒業)

地域に密着した医療の在り方を追求したい。

— 医師という仕事を選んだきっかけは？

昔から、いろんな人の人生に深く関わる仕事がしたいという気持ちがありました。中学生の時は、医師(まちのお医者さん)か教師になりたいと思っており、結局今は両方の仕事をさせていただいています。

— どのような仕事ですか？

教員として学生教育に関わりながら、大学病院で診療を行っています。私が取り組んでいるのは、家庭医という領域です。病気は、ストレスや生活環境など、さまざまな要因が関わって発症します。具合の悪い部分だけを治療して終わりというのではなく、患者さんの家庭や住んでいる地域社



会を含め、一人一人の人生と深く関わりながら、トータルに診療を行うのが家庭医の仕事です。仕事は大変ですが、患者さんに、心からありがとうと言ってもらえる、すてきな職業だと思います。患者さんから頂いた感謝の言葉が、がんばる気力になります。



— 社会人になって思うことは？

アジアの発展途上国に行って、インターネットが普及し、引きこもりやいじめが増えているのを知りました。それは、ちょっと前の日本社会そのもので、社会環境が人に与える影響の強さを表しています。

社会にはいろんな人がいますが、自分とちょっと違う人を「変わった人」「世界が違う人」と決め付けて、拒否してしまうのは良くありません。どんな人にも、その人格を形成した環境があるので、それを気に掛けて、知ろうとする態度が大事だと思います。大学生の皆さんは、いろんな人に出会って、いろんな世界を知ること、社会性を身に付けてほしいと思います。

— 今後の目標は？

専門分化した研究により、医学は飛躍的な進歩を遂げました。そんな中私は、多くの方がかかる、よくある病気について研究したいと思っています。

また家庭医として、地域の診療所・中小病院での、住民と密着した医療の在り方を追求しています。住民や医療関係者、行政や企業など、地域が一緒になって、地域の問題を解決していく。そういう領域で、医学の知識を生かしていきたいと思っています。

— 広大生へメッセージを

皆さんにとって命とは何でしょうか？僕は、尊敬する医師、日野原重明先生の「命とは時間である」という言葉に共感します。命は時間に置き換えることができます。大学生の特権は、時間を自由に使えるということ。限られた時間を自分のために使っても、自分以外の誰かのために使っても自由です。ただ漫然と過ごすのではなく、自分の意志で、命に等しい貴重な時間を有効に活用してほしいと思います。

社会の第線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。
仕事のことから学生時代に身に付けておくべきことはまた「インターンシップ」。
私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤 OBG&OG 紹介

compass



— 現在の仕事を選んだきっかけは？

大学時代に、どんな仕事に就こうかと考えた時、もともと好きだった旅行に関係があり、いろんな人と関わる仕事がしたいと思いました。航空会社の他に、旅行会社などを何社か受けましたが、最終的にANAへの就職を決めました。客室乗務員は、昔からの憧れの仕事というわけではありませんでしたが、外国へ行って、いろんな人との出会いがある客室乗務員の仕事は、大変魅力的に感じました。

— どんな大学生活でしたか？

大学2年生の夏から1年間、スウェーデンに留学しました。海外旅行の経験はあったものの、書類手続きや旅券の発行など、自分1人で調べて手配したのは、この留学が初めてでした。スウェーデンの学生は日本への関心が高く、現地では多くの学生と知り合いになりました。彼らとのコミュニケーションを通じて、いろんな考え方に触れ、刺激を受けました。大学で学んだ日本語教育の知識を生かし、日本語を学ぶ学生の授業をサポートできたのも、貴重な経験でした。



— 客室乗務員はどんな仕事ですか？

客室乗務員というと、華やかな仕事を想像すると思いますが、実際は地味で目立たない仕事もたくさんあります。特に、お客さまを安全に目的地までお届けするために、保安面での訓練は欠かせません。接客やマナーの研修よりも、

機内で病人が出た時の対応など、保安に関わる訓練のほうが多いです。また、客室乗務員の仕事では、体調管理が非常に大事です。勤務はシフト制ですし、国際線では長時間のフライトがほとんどです。時差もあって、生活リズムは不規則になりがちですが、体調を崩さないために、しっかりと食べて、睡眠を取ることを心掛けています。

フライトでは「お客さまの安心」を一番に考えます。出発が遅れたときは、それぞれのお客さまに、乗り継ぎの電車や飛行機の時間を案内します。些細なことですが、そんな心配りがお客さまの安心につながります。

客室乗務員は、フライトごとにメンバーが替わります。それぞれのフライトで、客室乗務員の意思疎通を図り、チームをまとめ、指示を出すのがチーフパーサーです。私は最近、国内線のチーフパーサーの資格を取りました。チーフパーサーの力量次第で、チームの雰囲気が変わります。今までは、一人前の客室乗務員になることを意識してきたのですが、これからはチームをまとめる能力を培っていきたくて考えています。

— 広大生へメッセージを

私が就職活動をしていた時に感じたのは、広大生は保守的だということです。職業や企業を選択する時、受験する前から諦めてしまう人もいます。広大生は経験も能力もあるので、とてももったいないことだと思います。自分のやりたいことを、自信を持って納得がいくまでやってみることが大事です。何事もやってみないと始まりませんよ！



國分 夢子 Yumeko Kokubu
全日本空輸株式会社 客室本部 東京客室部 客室乗務員
(2007年3月 教育学部卒業)

お客さまの安心を第一に、心配りを大切に。

取材を終えて



横林さんは笑顔がとてもすてきな方でした。「命とは時間である」という言葉がとても印象的でした。自分の意志で自由に時間を使える学生時代。これからは、私も「周りをハッピーに」できるように、行動していきたいと思いました。

取材・記事/経済学部2年 一木 星



すらっとしていて、きれいな方でした。お話を聞いていくうちに、國分さんの行動力や積極性を感じました。同じ学科の先輩で共通の話題もあり、とても充実した時間でした。実は、國分さんは学生時代にも「HU-style」に登場されています(2005年10月号体感地球)。私にとってすてきな出会いの一つとなりました。

取材・記事/教育学部2年 阿部 翠